

# 平成29年度専門学校ユマニテク医療福祉大学校

## 学校関係者評価報告書

学校法人みえ大橋学園専門学校ユマニテク医療福祉大学校学校関係者評価委員会は、平成30年3月26日に「平成29年度学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成30年3月28日作成  
学校法人みえ大橋学園  
専門学校ユマニテク医療福祉大学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 大田京子（一般社団法人三重県介護福祉士会会長）
2. 北 正美（有限会社 ホワイト介護）
3. 稲垣昭義（専門学校ユマニテク医療福祉大学校学校長）
4. 伊藤幾代（専門学校ユマニテク医療福祉大学校介護福祉学科学科長）
5. 松林秀樹（専門学校ユマニテク医療福祉大学校事務長）
6. 種井紫（専門学校ユマニテク医療福祉大学校事務主任）

以上6名

## 2. 平成 29 年度自己評価 (平成 29 年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：ほぼ適切 (平均 3.0 点、15 点/20 点)</p> <p>課題：学校の理念・目的・育成人材像・特色は HP や募集要項にも明記されているが、外国人介護福祉人材育成等将来構想について学生・保護者への周知が不十分である。</p> <p>今後の対応：介護人材不足の中、外国人介護福祉士育成にも力を注ぐように関係機関と連携していき福祉業界における学校の役割を検討していく。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：やや不適切～ほぼ適切 (平均 2.71 点、19 点/28 点)</p> <p>課題：人事、給与の規定、教務・財務等の意思決定システム、業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備が十分にできていない。</p> <p>今後の対応：上記の規定、意思決定システム、コンプライアンス体制などについて議論し、整備していく。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切～適切 (平均 3.14 点、44 点/56 点)</p> <p>課題：職員の能力開発や関係分野における先端的な知識・技能を獲得するための研修や指導力育成のための取組みが十分にできていない。</p> <p>今後の対応：職員の能力開発や知識・技能のさらなる習得のため、積極的な研修の参加、研究を行えるように環境を整える。</p>
(4) 学習成果	<p>評価：ほぼ適切～適切 (平均 3.0 点 15 点/20 点)</p> <p>課題：入学後の家庭経済事情、学業不振、進路変更による退学者があった。</p> <p>今後の対応：入学前より本人・保護者と面談を重ね意思確認等を行い入学後個別指導や効果的な学習について検討する。卒業後教育に関して有償インターシップ参加を促しさらなるスキルアップを目指す機会を同窓会を通じ案内していく。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：やや不適切～適切 (平均 3.0 点、30 点/40 点)</p> <p>課題：学生の生活環境支援は行っているものの家庭環境が複雑になっており解決に時間がかかっている。スクールカウンセラーの設置はあるものの十分に活用されていない。</p> <p>今後の対応：保護者との連携を強化するとともに早期解決にむけて取り組んでいく。スクールカウンセリングに気軽にいけるような環境作りを行う。</p>

<p><b>(6) 教育環境</b></p>	<p>評価：やや不適切～ほぼ適切（平均 2.67 点、8 点／12 点）  課題：防災に対する体制が十分でない。設備や備品が老朽化している。  今後の対応：防災マニュアルに沿ったより実践的な防災訓練を行う。防災備品に関しては計画的に修理、購入していく。</p>
<p><b>(7) 学生の受け入れ 募集</b></p>	<p>評価：やや不適切～ほぼ適切（平均 2.67 点、8 点／12 点）  課題：学生募集活動は活発に行っているものの、十分な成果として表れていない。  今後の対応：募集活動において、ホームページや SNS を使用した取り組みを行っていく。介護福祉社会や施設と連携をとり介護の魅力を発信していく。募集担当の職業理解を深めていく。</p>
<p><b>(8) 財務</b></p>	<p>評価：ほぼ適切～適切（平均 3.25 点、13 点／16 点）  課題：学生募集の状況より帰属収入の低下している。  今後の対応：募集観点から学納金については平成 30 年度より留学生の受入れにおける経費の増額、平成 31 年度より消費税の増税が見込まれるため、経費の削減も含め学費の検討をおこなう。</p>
<p><b>(9) 法令等の遵守</b></p>	<p>評価：やや不適切～ほぼ適切（平均 2.75 点、11 点／16 点）  課題：自己評価結果を公開していない。  今後の対応：自己評価結果を公開する。</p>
<p><b>(10) 社会貢献・ 地域貢献</b></p>	<p>評価：適切（平均 4.0 点、12 点／12 点）  今後の対応：継続して地域行事、ボランティア活動を推進していく。</p>

### 3. 平成 29 年度 学校関係者評価（平成 29 年度の自己評価についての評価）

項目	評価・課題
<p><b>(1) 教育理念・目標</b>  「理念・目的・育成人材像は定められているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p><b>(2) 学校運営</b>  「目的等に沿った運営方針が策定されているか」</p>	<p>適切である。</p>

<p><b>(3) 教育活動</b> 「教育理念等に沿って教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」</p>	適切である。
<p><b>(4) 学習成果</b> 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」</p>	適切である。
<p><b>(5) 学生支援</b> 「学生相談に関する支援体制は整備されているのか」</p>	適切である
<p><b>(6) 教育環境</b> 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」</p>	適切である。
<p><b>(7) 学生の受け入れ募集</b> 「学生募集活動は適正に行われているか」</p>	適切である。
<p><b>(8) 財務</b> 「財務について会計監査が適正に行われているか」</p>	適切である。
<p><b>(9) 法令等の遵守</b> 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」</p>	適切である。
<p><b>(10) 社会貢献・地域貢献</b> 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」</p>	適切である。

#### 4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	全体的に、自己評価では、ほぼ適切があるもののおおむね適切なレベルである。今後は、自己評価の中で抽出された課題について、少しでも解決手段を検討し、質の高い学校運営を目指していく。また、業界のニーズ等については、委員とも意見交換し、中長期的な視野で人材育成を行っていく。